

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について
病虫害発生予報第1号を下記のとおり発表したので送付します。

平成21年度病虫害発生予報第1号

平成21年4月10日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	やや早	並	タマネギ	べと病	—	並
モモ	灰星病 カメムシ類	並 早	やや少 少	イチゴ	ハダニ類	—	並
イチゴ トマト ナス レタス	灰色かび病	—	並				

1 普通作物

(麦類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 並

予報の根拠

ア. 麦の生育は全般的に平年並～やや早い。

イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。4月3日の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生量は平年並と予想される。

防除上の参考事項

ア. 本病の第一次伝染源である子のう殻形成が盛んになるのは、日平均気温13℃以上かつ降雨直後であり、子のう胞子の飛散が盛んになるのは日最高気温15℃以上かつ日最低気温10℃以上で湿度80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市の観測値では、現在のところ3月22日に子のう殻形成好適日および飛散好適日が出現したのみである。3月下旬は気温が低く推移し、好適条件は出現していないが、今後の天候次第では注意を要する。

イ. 赤かび病による被害粒が10,000粒中5粒以上混入すると「規格外」となるため、今後の気象経過に注意しながら適期防除に努める。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの開花時期はほぼ平年並である。

イ. 4月3日の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生量は平年よりやや少ないと予想される。

(2) カメムシ類

予報内容

発生時期 早

発生量 少

予報の根拠

ア. 前年のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用したチャバネアオカメムシの越冬世代（4～7月）の予察灯誘殺数は、赤磐市では0頭で平年（286.6頭）より少なく、津山市でも72.1頭で平年（195.5頭）より少ないと予測される。

イ. 4月3日の1か月予報によると、気温は平年より高いとされており、発生時期は平年より早いと予想される。

3 野 菜

(1) イチゴ、トマト、ナス、レタスの灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月7日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや多かった。

イ. 4月3日の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) タマネギべと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月7日の巡回調査によると一般圃場での越年罹病株の発生量は平年よりやや多かった。

イ. 4月3日の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 伝染源：生育初期に罹病した越年罹病株（萎縮ぎみで葉身がわん曲し、表面に白色のカビが生じる）が伝染源となる。越年罹病株は見つけ次第抜き取り、ポリ袋等に密閉して嫌気発酵させる。

イ. 薬剤散布：ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000、フェスティバルM水和剤などを予防的に散布する。球の肥大期以降、葉に楕円形の淡黄緑色病斑がみえ始めたらリドミルMZ水和剤、カーゼートPZ水和剤などを散布する。なお、農薬の使用に当たっては、農薬使用基準や使用上の注意事項等を遵守する。

ウ. 気温15℃前後の多湿条件下で発病しやすいため、3月以降に雨が多いと多発生しやすい。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月7日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 4月3日の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



リーダー用のQRコード